

林業普及指導員の「木材利用推進」情報

■北海道（総合）振興局森林室に勤務する林業普及指導員からの情報です

十勝産カラマツ材を使用した畜舎の建築事例 ～浦幌町の取組～

十勝総合振興局森林室普及課

【背景・目的】

十勝管内の一般民有林人工林面積108千haのうち、80%がカラマツであり、その多くが建築材等に利用可能な齢級に達していることから、地域材の利用拡大が課題となっています。

このため、管内の全市町村では、「地域材利用推進方針」を策定し、地域材を利用した木造公共施設等の建設を進めていますが、農業分野での普及は進んでいない現状です。

当森林室では、農業分野など多様な分野への地域材利用拡大の取組を進めるため、地域の森林・林業・木材産業関係者や農協等と連携した普及指導活動を展開しており、今年度、浦幌町で地元カラマツ材を使用した町営模範牧場畜舎が建築されましたので、その事例について紹介します。

【浦幌町の概要】

浦幌町は、ゆるやかな丘陵地と海岸段丘からなり、畜産や畑作、林業、漁業などの第一次産業が盛んな地域です。

カラマツ人工林の面積は10,391haあり、主伐期を迎えている8齢級以上の林分が全体の66%を占めているため、今後の木材利用に向けた取組がますます重要となってきます。

表 浦幌町のカラマツ人工林資源構成

1～2齢級	3～5齢級	6～7齢級	8齢級以上
1,455ha	1,483ha	623ha	6,830ha
14%	14%	6%	66%

【木造畜舎を建築するに至った経緯】

浦幌町営模範牧場は、太平洋側に面した斜面の上に位置しており、濃霧が発生しやすく、湿度や塩分濃度が高い地域となっています。

このため、鉄筋構造の畜舎では、結露や塩害による錆が発生し、ライフサイクルコストの高くなることが問題となり、町では、地域材であるカラマツの有効利用、畜舎環境の改善、地域経済への波及効果を含め総合的に検討した結果、カラマツ材を利用した木造畜舎がこの地域に適していると判断し、建築するに至りました。

【施設の概要】

浦幌町営模範牧場畜舎

施工：平成25年5月14日～平成25年10月15日

事業主体：浦幌町

施設規模：木造1階建 床面積1,653㎡

工法：木材使用樹種：浦幌町産カラマツ

木材使用材積：170㎡

（カラマツ構造用集成材：57㎡）

（カラマツ構造用・下地用製材：113㎡）

家畜収容頭数：240頭

【今後の取組】

森林室では、十勝産カラマツ材の利用拡大を図るため、各関係機関等と連携を図り、地域材利用の木造公共施設及び木造住宅の見学会等を継続的に開催し、地域材利用による森林の適切な整備や資源循環利用による林業再生について理解してもらうなど「地材地消」のさらなる推進を図ります。



木造畜舎の視察（森林室・役場関係者）



木造畜舎内部



カラマツ集成材を使用した柱

編集後記

朝晩の気温が1桁になり、急に寒さを感じるようになりました。大雪山系黒岳では初雪の便りも聞こえるようになっていきますので尤もです。

10月は行楽の季節であり、車を使って出かける機会も多くなりがちですが、それに伴って危険に遭遇する機会も多くなります。先日、私用に高速道路を使って名寄まで出かけた際に、高速道路のサービスエリア入り口で、私の目の前で急に停止した車と危うく衝突しかけるという場面がありました。高速道路で急停止するなどもってのほかです。他にも、ついこの前とうとう高速道路を逆走している車を見ました。ニュースではよく見聞きしていたものの自分が遭遇するとは思っていませんでした。反対車線での出来事でしたが、不思議な感覚と驚きを覚えました。旭川鷹栖から旭川北ICの二車線追い越し区間で、対向車も多かったにも拘わらず、事故にはならなかったようでした。歳とともに運転には気をつけたいものです。

最近ニュースで見た「秋と聞いて何を連想します

か？」という質問のランキングでは、上位から食欲、紅葉、スポーツ、読書、着替え等と続くようです。旧暦10月は神無月と呼びますが、一般には出雲の出雲大社に全国の神様が集まって一年の事を話し合うため、出雲以外には神様が居なくなる月の意味と言われており、出雲では神在月（かみありづき）というようです。しかし、出雲へ行かず村や家に留まる田の神、家の神的性格を持つ留守神も存在し、全ての神が出雲に行くわけではないようです。

今月は、(株)フーム空間計画工房の宮島豊氏に執筆をしていただきました。今の家造りは量産化、プレカット規格で通直な木材ばかり使うので有用な木材が不必要となっている。強いては職人が必要でなくなっている。熟練工としての大工等の働き場が激減、巧みの技が消えていく。地域には大きなマイナスと提言されています。

公共建築物木材利用促進法の施行により、着実に木造公共建築物が各地で建築されています。十勝地域の地域材を確実に使う環境作りの普及指導活動は見事と思います。

霜降の候となりました。ご自愛下さい。

(植杉雅幸)



コロポックル ログハウス「木路歩来」

「情報館」となりのログハウスは、北海道内に植えられたカラマツの間伐材を一定の太さの丸太(ログ)に加工して組みあげたものです。

中には、木で作製した大型の遊具を配置してあります。親子で木にふれて、その優しさやぬくもりを体験してください。開館期間は4月下旬から10月いっぱいです。

会員募集

一般社団法人北海道林産技術普及協会は、林産工業技術に関する調査・試験研究成果の普及宣伝等を行っている団体です。会員には、月刊誌ウッドエイジの配布、試験研究費用の助成などのメリットがあります。是非、ご入会ください。

会費・入会申し込み先は、下記奥付をご参照ください。

ウッドエイジ

木材の研究と普及
2013年10月号 (722号)

平成25年10月25日 発行

編集発行人 高橋 範行

発行所 一般社団法人北海道林産技術普及協会

〒078-8381 旭川市西神楽1線10号 林産試験場内
TEL/FAX (0166)75-3553

E-mail : rghk@juno.ocn.ne.jp URL : <http://rinsan-fukyu.jp>

特別会員会費	年額	1口	25,000円
通常会員会費	年額		15,000円

上記は共に「月刊誌ウッドエイジ」代を含む。